

横浜市の地域日本語教育（日本語学習支援）を進める体制をつくるためのアンケート結果【簡単なまとめ】案

横浜市国際局

アンケートの目的や内容

●アンケートの目的など

- 「横浜市の地域日本語教育（日本語学習支援）のプラン」を作るため、アンケートをしました。アンケートでは、地域日本語教育（学習支援）の今の様子と、いろいろな団体や人の意見を聞きました。
- 地域日本語教室で勉強する人たちにもアンケートをしました。おとな926人、こども242人が答えました。国際交流ラウンジ、地域日本語教室、学習支援教室などに協力してもらいました。日本語学習を手伝う人や教室の協力のおかげで、日本語を勉強する人に合わせた計画を作ることができました。

●アンケートで聞いたこと

- 勉強することや団体のこと／日本語を勉強してどうしたいか、勉強の方法と内容／グループや団体がどのように協力しているかなど

●アンケートに答える人、集まったアンケート

個人が答えます

アンケートの種類	①日本語を勉強する人へのアンケート（おとな・こども）
アンケートに答える人	市内の日本語教室で勉強する、大体18歳以上のおとな。小学校4年生から高校生くらいの年齢のこども。 ※おとなとこどもでは、質問が少し違います。
アンケートのやり方	教室にアンケートを送り、教室で集めました。（日本語、中国語、英語、ベトナム語、ネパール語のアンケート） アンケートのためのウェブサイトを作りました。ウェブフォームから答えることができました。
アンケートの期間	2024年9月2日～10月6日
配ったアンケートの数	おとな 2,363、こども 434
集まったアンケート（答えがあったもの）の数	おとな 926、こども 242
集まったアンケート（答えがあったもの）の割合	おとな 39.1%、こども 50.0%

団体(だんたい)が(こた)答えます

アンケートの種類	②地域日本語教室へのアンケート	③外国人が働く会社などへのアンケート	④日本語学校などへのアンケート	⑤日本語教師になる人のための学校へのアンケート	⑥国際交流ラウンジへのアンケート
アンケートに答える人	YOKE 「日本語・学習支援教室データベース(横浜)」にある教室	外国人が多く働く業界の会社など(同じ会社のいろいろな支店・事務所は、別々に数えています)	日本語が母語ではない人のための、日本語学校、専門学校、語学学校、大学など	日本語教師になる人のための学校(大学・大学院、日本語学校など)	横浜市内の国際交流ラウンジ
アンケートのやり方	郵便	郵便	郵便	郵便	eメール
	アンケートのためのウェブサイトを作りました。 ウェブフォームから答えることができました。				
アンケートの期間	2024年8月19日～9月13日				
配ったアンケートの数	139	462	53	8	13
集まったアンケート(答えがあったもの)の数	87	81	26	3	13
集まったアンケート(答えがあったもの)の割合	62.6%	17.5%	44.8%	31.5%	100.0%

★アンケートの結果の読み方

- ・横浜市国際交流協会は「YOKE」、国際交流ラウンジは「ラウンジ」と書いています。
- ・「n」は答えた人の数、「MA」は答えを2つ以上選ぶことができる質問です。答えを1つだけ選ぶ質問には、記号をつけていません。
- ・文章の中で書いている割合(%)は、大体の数字です。

アンケート結果のまとめ

① 日本語を勉強するおとなとこども(大人 n=926・こども n=242)

◇日本にずっと住みたい人、長く住みたい人が多いです。

<こども>日本の学校に通う小学生と中学生が90%ぐらいです。

- ・アンケートに答えた人の学校は、日本の小学校52%、中学校38%、高校5%、外国人学校3%です。
- ・家で使う言葉で「日本語をあまり使わない」が55%、「日本語も使う」が43%で、「日本語だけ」は2%です。
- ・約70%が小学生・中学生・高校生のときに日本に来ています。「生まれてからずっと日本にいる」というこどもは約10%です。将来は「ずっと・できればずっと日本に住みたい」が約50%、「わからない」が30%、

「日本以外の国に住みたい」約10%、「母国に住みたい」約10%です。

＜おとな＞働く人、働く人の家族が増えています。

・アンケートに答えた人の年齢は、30代36%、40代26%、10-20代25%と、40代までが約90%です。日本に住む目的は、日本に長く住む人とそのパートナー33%、働く人と、働く人や留学生などの家族が50%以上です。留学生は6%です。

＊2024年9月の横浜市の外国人：日本に長く住む人51%、働く人28%、働く人や留学生などの家族11%

・日本にどれくらい住んでいるかは、1年以内が約30%で、3年以内が約60%です。これから日本に住む期間は、50%以上の人「ずっと住む・ずっと住みたい」「6年以上」です。日本に長く住む予定です。

◇＜おとな＞日本語を勉強する理由はいろいろです。会話ができるようになりたい人が一番多いです。

- ・＜子ども＞友だちや先生と「話す・聞く」、文を「書く」ことができない人は少ないです。けれども、約20%が本や教科書を「あまり読めない」です。
- ・＜おとな＞ふだんの生活に困らないくらい、日本語を聞いて話す人は約33%です。「聞いてわかる・話す」「読む」「書く」がほとんどできない人は約10%ずつです。漢字を使わない国・地域では、読むことが苦手な人が少し多いです。
- ・日本語を勉強して、したいことは、「会話」「日本人とやりとり」「生活の情報がわかる」、「仕事」「読む・書く」など、いろいろです。【表1】

【表1】大人が日本語を勉強する理由 (MA) (%)

会話(話す・聞く)	82.9
日本人とコミュニケーションをとる	69.2
生活に必要な情報がわかる	65.7
仕事(就職・転職・昇進)	57.6
読み書き(漢字や文法)	54.4
日本の文化や習慣を知る	54.4
病院にかかる	44.2
日本語能力試験(JLPT)対策	42.3
コミュニティに参加できる	39.6
自分で契約や手続きができる	32.6
子育てや子どもの教育	27.0

◇教室を選ぶときは、曜日や時間、通いやすい場所が大切です。

- ・なぜ、今の教室を選びましたか。
- ＜子ども＞「宿題ができる」「曜日・時間がいい」「家から近い」などです。
- ＜おとな＞「曜日・時間がいい」「場所がいい」という人が多いです。次に「安心できる」「日本語のレベルに合う」「お金が安い」という人も多いです。【表2・3】
- ・電車やバスに乗らないで来る人は、おとなも子どもも50%より少ないです。電車やバスに乗る人もたくさんいます。

【表2】子どもが今の教室を選んだ理由(MA) (%)

宿題をみてもらえるから	37.2
曜日・時間が合うから	32.6
家から近いから	31.8
家族が選んだ	31.4
先生がやさしそうだから	29.3
マンツーマンで教えてもらえるから	24.4
友だちがいるから	17.4

【表3】大人が今の教室を選んだ理由 (MA) (%)

曜日・時間が合うから	70.5
通いやすい場所だから	59.8
居心地がいいから	44.5
自分の日本語のレベルに合うから	44.0
お金がかからないから	38.1
自分の希望に合わせて教えてくれるから	26.7
マンツーマンで教えてもらえるから	24.9
外国人同士で話せるから	23.4

◇教室では、友だちができたり、知りたいことを質問することもできます。

- ・<子ども>約80%が「教室に通うのはたのしい」と答えています。教室でよかったことは「学校の勉強がわかるようになった」「日本語の勉強が楽しい」などです。【表4】
- ・<おとな>教室でよかったことは、「日本語で会話ができる」「日本語の勉強が楽しい」「読む・書くが上手になった」「生活のお知らせがわかる」など、いろいろです。【表5】

【表4】

子どもが「教室に通ってよかったこと」(MA) (%)

授業がわかるようになった	83.1
日本語の勉強が楽しい	58.7
教室の先生と知り合えた	35.1
友だちと日本語で話せるようになった	33.5
一緒に日本語を勉強する友だちができた	29.3

【表5】

大人が「教室に通ってよかったこと」(MA) (%)

日本語で会話できるようになった	73.2
日本語の勉強が楽しい	62.2
日本語での読み書きが上手になった	54.0
生活に必要な情報が得やすくなった	49.8
一緒に日本語を勉強する友だちができた	41.2
日本人の知り合いが増えた	39.4
日本(横浜)のことがわかった	36.5
困ったとき相談できる場所ができた	31.6

◇<子ども>「もっと日本語を勉強したい」です。

- ・<子ども>70%以上が「もっと日本語を勉強したい」と答えました。そして、もっとオンラインで勉強したい人が多かったです。【表6】

【表6】

子どもが「もっと日本語が学びやすくなるには」(MA) (%)

もっとオンラインで勉強できるとよい	66.9
通いやすい場所で勉強できるとよい	45.5
日本人と交流しながら、言葉や文化がわかりあえるとよい	36.0
もっと曜日や時間を選べるとよい	35.1
もっと学校で日本語を勉強できるとよい	26.4

◇日本語を勉強する人の多くが、住んでいるところで地域の活動に参加したい・地域の人と交流したいと思っています。人や社会の役に立つこともしたいと思っています。

- ・地域のイベントでいたい人、仕事で人や社会を助けたい人、自分の言葉や文化を紹介したい人、日本に来た外国人に日本語や日本のことを教えたい人などがいます。【表7】

【表7】大人が「地域で活動したいこと・できること」(MA) (%)

地域のまつりやイベントに参加して、いろいろな人と交流したい	50.2
仕事を通じてもっと役に立ちたい	43.3
自分の国の言葉や文化を紹介したい	37.2
初めて日本に来た外国人に日本語や日本のことを教えたい	32.1
ボランティア活動をしたい	28.1

② 地域日本語教室 (n=87)

◇地域の日本語教室は、勉強する人に合わせて、教室を開いてくれます。

- アンケートに答えた教室は、60%以上がボランティアのグループ、30%以上がNPO法人です。
- おとなだけが勉強できる教室は約60%、こどもだけが勉強できる教室は約25%、おとなもこどもも勉強できる教室は約10%です。
- 教室を開くところは、「国際交流ラウンジ」40%以上です。そのほかは、「地区センター」「地域ケアプラザ」などです。区役所や学校で勉強する教室もあります。
- 教室は、週に何回ありますか。1回70%、2回20%です。3回以上のところもあります。平日（月曜日から金曜日）の午前中が約40%に近いです。平日と土曜日と日曜日の午後がそれぞれ約30%で、いろいろな人が勉強しやすいときに、教室を開いています。
- 日本語を勉強する人からお金をもらう教室は約50%です。無料（0円）の教室は40%です。

◇教室は、日本語を勉強する人が、日本の社会や地域の生活とつながる、大切なところです。

- 日本語の勉強を手伝うのに大切にしていること。「基本的な日本語ができるようになる」「日本語が生活で使えるようになる」「日本人と話す」などです。勉強する人の目的に合わせても大切にしています。【表8】
- 勉強の方法は、勉強する人と手伝う人がひとりずつ、または勉強する人が2-3人くらいの小さいグループです。約33%がオンラインも使っています。オンラインで困ることは、オンラインの使い方が難しいことや、勉強する人が使いにくいことなどです。
- 教室では、日本語の勉強のほか、「相談や困っていることを聞く」「生活の情報を伝える」ことをしています。【表9】
- 日本語を勉強している人が、困ったときに相談するところは「国際交流ラウンジ」50%以上、「市区役所」約20%、「YOKE」約10%です。
- 教室が困っていることは、「日本語の勉強を手伝う人が足りない」「もっと上手に手伝えるようになりたい」、「年をとった人が多くなっている」です。また、「勉強したい人が増えて、どうするか」「教室の場所を予約すること」「日本語レベルの違う人が、どうしたら一緒に勉強できるか」「勉強する人と手伝う人の組み合わせ」にも困っています。【表10】

【表8】日本語学習支援で大切にしていること(MA) (%)

基礎的な日本語ができるようになる	83.9
生活に必要な日本語ができるようになる	75.9
日本人と話すチャンスがある	72.4
役にたつ日本語ができるようになる	71.3
一人一人に合わせた勉強の手伝い	57.5
日本の社会や文化をもっと知る	48.3
日本の社会や文化の理解を手伝う	44.8
正しい日本語が使える	40.2
日本語能力試験(JLPT)のための勉強をする	37.9

【表9】学習支援の他に手伝っていること(MA) (%)

学習者が困っていることを聞く	64.4
生活の情報を伝える	48.3
相談できるところを紹介する	40.2
書類を一緒に読む(子どもの学校からのお知らせなど)	36.8
子どもの親が困っていることを聞く	27.6
いろいろな手続きを手伝う	18.4

【表10】教室で困っていること(MA) (%)

日本語の勉強を手伝う人が足りない	51.7
もっと上手に手伝えるようになりたい	46.0
日本語の勉強を手伝う人が年をとっている	46.0
勉強したい人が増えて、教室に参加できない	31.0
日本語の勉強を手伝う人を、上手に集める方法	24.1
教室の場所を用意すること	24.1
日本語が話せる人と話せない人が、どうやったら一緒に勉強できるか	19.5
学習者と、手伝う人を組み合わせることが難しい	19.5

② 外国人が働く会社など (n=58)

◇外国人が働く会社の90%が、日本語ができることを、雇う条件にしています。

- 外国人が働いていると答えたアンケートは58枚でした。仕事の種類は「介護」「建設」「レストラン・ホテル」「ものを作る・掃除」の順に多いです。仕事の内容は「専門や技術」「技能」「お客さまへのサービス」の順に多いです。
- 働く人の年齢は、20代から30代で80%です。国や地域は、ベトナム、ミャンマー、中国、フィリピン、インドネシア、ネパールなどです。
- 外国人が働く会社などでは、50%が「日本語ができることが、雇う条件のひとつ」を、約40%が「日本語力が必ず必要」を選びました。会社が希望するレベルは「生活での会話」約50%、「ひらがな・カタカナが読めること」約30%、「JLPTでN3以上」約30%、「N2以上」は10%以上です。

◇外国人が働く会社などの80%以上が、働く人や家族は、生活のための日本語を勉強が必要と考えています。

- 日本語の勉強を、どのように手伝いますか。答えは「働くところで声をかけあう」「同じ会社の人が、教えてたり助ける」が多いです。日本語教室を開く会社や、働く人が日本語学校に行くという会社は少ないです。【表11】

【表11】働く外国人の日本語学習の支援(MA) (%)

職場で普段から声をかけ合うようにしている	44.8
特に手伝いはしていない	24.1
会社の人が、仕事を教えてたり助けたりする(OJT)	20.7
会社で、仕事の時間に日本語を勉強する	17.2
会社で、仕事ではない時間に、日本語を勉強する	12.1
日本語学校に行けるよう、働く時間に気をつける	12.1
日本語能力試験(JLPT)のためのお金を払う(受験料、テキスト)	12.1

- 家族の日本語の勉強の手伝いは、日本語教室を知らせている会社などが、少しあります。
- 働く人と家族に、生活のための日本語の勉強が必要だと思いますか。答えは「必要です」45%、「とても必要です」40%近く、「よくわからない」約10%です。
- 日本語が勉強できる場所を知っていますか。知っている会社は約50%近くです。70%の職場が「日本語が勉強できる場所を知りたい」と答えました。どこで勉強できるか知りたい会社が多いです。

④ 日本語学校など (n=26) ⑤ 日本語教師になるための学校 (n=3)

◇日本語学校などが困っていることは、日本語の先生が足りないこと、学ぶ人の背景がいろいろであること、日本語教育の制度が変わることへの対応などです。

- 日本語学校などで勉強する学生の年齢は、20代が約90%です。「語学留学生」「働いている人」「働いている人のパートナー」「働くために準備をしている人」などがいます。勉強の目的は「日本語能力試験に合格する」や「入学試験に合格する」、「資格をとる」、「仕事で日本語を使う必要がある」などです。
- 日本語学校などが大切にしているのは、「生活で使える日本語」を勉強すること、次の学校に行く準備、働くときに必要な日本語の勉強などです。【表12】
- 勉強の方法は、多くの生徒に、先生が話しながら教えるところが多いです。
- 日本語学校などの困っていることは、「日本語の先生が足りないこと」「勉強する人のレベルが違うこと」

「日本語教育の内容を変更すること」などです。【表13】

【表12】 日本語教育で大切にしていること(MA) (%)

役にたつ日本語ができるようになる	57.7
学校に入るための勉強をする	53.8
正しい日本語が使える(文法など)	50.0
日本語能力試験(JLPT)のための勉強をする	50.0
仕事に必要な日本語ができるようになる	50.0
日本の社会や文化の理解を手伝う	50.0
生活に必要な日本語ができるようになる	42.3
一人一人に合わせた勉強の手伝い	38.5
仕事につくための勉強をする	30.8

【表13】 学校で困っていること(MA) (%)

先生が足りない	46.2
学習者の日本語レベルがいろいろになっている	38.5
新しいカリキュラムをつくる	30.8
学習ニーズが変わってきたことに合わせる	26.9
先生が上手に教えられるようになる	26.9
学校に入りたい人が多すぎる(みんなは入れない)	23.1
学校を卒業してからの、仕事や学校を探すこと	19.2

◇日本語学校などは、他の団体と協力しているところが少ないです。

- 日本語学校などの30%は、学生に、日本語教室で勉強できることを知らせています。日本語教室でも勉強する学生がいると答えた学校は20%です。日本語学校の学生・卒業生が日本語教室に行っているかはわからない、と答えた日本語学校が、いくつもあります。
- 日本語学校などは、外国人が日本語を勉強するとき、誰と協力していますか。答えは「ほかの日本語学校」30%、「国際交流ラウンジ」「YOKE」「市役所・区役所・国や県の機関」それぞれ20%です。「協力していません」は約35%です。
- 日本語学校などが、地域で協力できることは何ですか。答えは「横浜で生活する人のための教室を開くこと」「日本語の勉強を手伝う人の先生になること」などです。「何ができないかわからない」「できることはない」は約40%でした。日本語の先生を育てる学校は「日本語の勉強を手伝う方法を教えること」、「教室のプログラムを作ること」などと答えています。

◎ 国際交流ラウンジ (n=13)

◇国際交流ラウンジは、日本語を勉強したい人や日本語学習を手伝いたい人が来るところ、手伝う人を育てるところです。

- 日本語を勉強したい/手伝いたいという相談は、最近5年ほどで増えました。【表16】
- 日本語を勉強したい人からの相談は、「これから勉強したい」「日本語の勉強は初めてです」などです。日本語の勉強を手伝いたい人からの相談もあります。団体からは、「日本語の勉強を手伝う人が足りないです」「もっと上手に手伝えるようになりたい」という相談があります。【表14・表15】

【表14】 学習者・これから勉強したい人からの相談(MA) (%)

新しい申込	61.5
日本語がまだわからない人(はじめて勉強する)	53.8
子どもの学習支援教室	53.8
日本語が初級から中級の人	38.5
検定試験の勉強ができる教室がどこにあるか	23.1
子どもの日本語教室	23.1

【表15】 日本語学習を手伝う人、これから手伝いたい人からの相談(MA) (%)

日本語学習を手伝う申し込み(個人)	72.7
日本語学習を手伝うことに興味がある(個人)	45.5
日本語学習を手伝う人が足りない(団体)	45.5
日本語学習を手伝う人が、もっと上手に手伝えるようになりたい(団体)	45.5
日本語教室の他の活動に興味がある(個人)	18.2
日本語学習を手伝う人を集める方法(団体)	18.2

- ラウンジが日本語学習支援でしていることは、「日本語の勉強を手伝いたい人のための講座」「日本語教室の人が集まって話をする」が多いです。日本語教室を開くラウンジがあります。日本語教室の人に、部屋を貸すラウンジもあります。

●最近5年間くらいで、人の数や日本語についての相談が増えたか減ったかを比べました

- 会社で働く外国人の数と、ラウンジへの日本語の勉強の相談は「増えた」と答えたところが多いです。日本語学校などで勉強する人や、地域の日本語教室で勉強する人の数は、5年前と変わらないか、減ったと答えたところもあります。【表16】

【表16】

■最近5年間程度の増減の比較

単位%

	日本語教育機関 n=26	外国人雇用事業所 n=58	地域日本語教室 n=87		国際交流ラウンジ n=13	
	学生数	外国人従業員数	学習者数	学習支援者数	学習者・学習希望者からの相談	学習支援者・学習支援希望者からの相談
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
増えた	38.5	48.3	23.0	11.5	46.2	30.8
少し増えた	7.7	10.3	24.1	31.0	15.4	38.5
ほぼ横ばい	38.5	32.8	32.2	26.4	23.1	23.1
少し減った	7.7	3.4	5.7	17.2	7.7	0.0
減った	3.8	5.2	11.5	6.9	0.0	0.0
無回答	3.8	0.0	3.4	6.9	7.7	7.7